

渡辺大三

週刊 NEWS



【会派 NEWS】 2019(令和元)年 8 月 22 日号 週刊 Vol.25
 ご意見ご要望はお気軽に 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301
 TEL 090-3345-6929 FAX 042-381-5074 watanabedaizou@gmail.com

徹底比較 市役所職員数ここまで違う

人口類似市である東久留米市と小金井市

小金井市(人口 121,629 人)

東久留米市(人口 116,719 人)

	正規	任期付フル	再任用フル	再任用短時間	非常勤		正規	任期付フル	再任用フル	再任用短時間	非常勤
企画財政部	37	0	0	0	10	企画経営室	20	0	1	0	0
総務部	44	0	0	0	19	総務部	47	0	2	3	5
市民部	109	0	1	0	30	市民部	111	0	2	8	18
環境部	40	0	0	0	4	環境安全部	33	0	0	0	0
福祉保健部	85	0	0	0	39	福祉保健部	100	0	1	5	38
子ども家庭部	148	25	2	1	71	子ども家庭部	134	0	3	5	108
都市整備部	63	0	1	3	15	都市建設部	52	0	2	1	1
学校教育部	62	0	1	2	89	教育部	64	0	0	4	60
生涯学習部	34	0	1	0	28						
会計課	7	0	0	0	2	会計課	7	0	0	1	0
議会事務局	10	0	0	0	1	議会事務局	4	0	1	3	0
選管事務局	4	0	0	0	0	選管事務局	4	0	0	0	0
監査事務局	3	0	0	0	0	監査事務局	3	0	0	0	0
農委事務局	0	0	0	0	0	農委事務局	0	0	0	0	0
合計	646	25	6	6	308	合計	579	0	12	30	230

平成 31 年 4 月 1 日現在。比較しやすいよう、東久留米市の保険年金課分は市民部に、東久留米市の防災防犯課分は総務部に、小金井市の下水道課は都市整備部に、それぞれ組み入れて計算した(実際には、保険年金課は福祉保健部、防災防犯課は環境安全部、下水道課は環境部である)。東久留米市は教育部が学校教育と生涯学習の双方を担当している。

上の表は、私の要求に応じて小金井市企画財政部行政経営担当が作成した資料の抜粋です(8 月 5 日の市議会総務企画委員会に提出されました)。

東久留米市は、多摩地域では行財政改革の「優等生」として知られています。正規職員にしても、非常勤職員にしても、「少数精鋭」で市役所を運営し、人件費を抑制している点は高く評価できます。

東久留米市と小金井市は人口がほぼ同じですので、セクションごとの職員配置状況を比較できる資料があ

れば、小金井市役所のどこに問題があるのか明らかになると思います、作成を要求したわけです。この資料から読み取れることを以下に列記してみたいと思います。

- ① 市役所全体の管理部門である企画部門、総務部門を比較してみると、小金井市は正規職員を 81 人も配置しています。一方、東久留米市はわずか 67 人(再任用を含めた場合は 73 人)で済ませています。しかも小金井市は正規職員が多

い上に、非常勤を 29 人も雇用しています。東久留米市の非常勤はわずか 5 人です。つまり、小金井市は管理部門が「頭でっかち」になってしまっているわけです。行革を進めるべき管理部門がブクブク太っていたのでは、問題が多いと言わなければなりません。

- ② 市民部については、おおむね同程度の職員配置と見ることができます。
- ③ 環境部の正規職員は、小金井市が 40 人、東久留米市が 33 人です。小金井市は多くなっています。特にごみ対策課が多くなっています。
- ④ 福祉保健部は、東久留米市の方が、職員配置が手厚くなっています。東久留米市の特徴は、管理部門や教育部門を抑制して、福祉の第一線の人材は確保している点にあります。
- ⑤ 子ども家庭部に関しては、小金井市の方が、正規職員が多い上に、任期付きフルタイムの雇用が異常に多くなっています。
- ⑥ 都市整備部については、おおむね同程度の正規職員の配置ですが、小金井市は非常勤を多数雇用しています。そんな必要があるのでしょうか。
- ⑦ 特に問題が多いのは教育部門です。小金井市の正規職員は学校教育と生涯学習の合計で実に 96 人も配置されています。一方、東久留米市は 64 人です。しかも、小金井市は非常勤を大量に雇用しています。

なお、この表には「臨時職員」の数値が出ていません。金額ベースでは、小金井市は 1 億 6832 万 5000 円、東久留米市は 7 億 9241 万 5000 円を計上しています。「臨時職員」は流動的に雇用されているので、比較分析が難しいところではありますが、東久留米市では臨時職員を活用して正規職員、任期付職員、非常勤職員の数を抑制しているものと思われる。

今回、東久留米市と小金井市の職員配置を比較することで、小金井市の職員配置の問題点が浮き彫りになりました。西岡市長が市長になって、急激に人件費総額が拡大してしまっています。「放漫経営」と言わざるをえません。今後、職員数の適正化を急ぐよう、私も政策提言を強めていきたいと考えています。

■ 会計年度任用職員にも定数条例を

従来、非常勤職員等にはボーナスは支給されてきませんでしたが、国が導入した「会計年度任用職員」制度に切り替わることにより、来年度からボーナスの支給が始まります。そのこと自体は、非常勤職員の待遇改善の意味で必要なことではありますが、ボーナスの支給も行うとなれば、どの程度の人数の雇用

が必要なのか、従来以上に厳しくチェックされるのは理の当然です。正規職員には、定数条例がありますが、それと同じように定数条例を定めていくべきだと私は考えています。

定数条例がないと、「正規職員も多い、会計年度任用職員も多い」という高額人件費体質が続いてしまいかねません。

市議会主催の議会報告会

本年度は 8/31 開催

小金井市議会は、議会基本条例で「年 1 回以上」議会報告会を開催することとなっています。

本年度は下記の通り開催の予定です。ぜひご参加ください。

なお、私は年に 4 回の定例議会ごとの開催を求めています。現時点で実現していません。

日時 8 月 31 日(土)18:00~20:00

場所 小金井市市民会館 萌え木ホール

入場無料/定員 60 人(先着順)/申込不要

手話通訳あり

保育あり(8/22 までに事前申込が必要です)

脱ムダで市政を変える!

渡辺大三 プロフィール

1966 年 5 月 2 日、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市、宮城県仙台市、山形県山形市を経て、9 歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校、小金井市立小金井第一中学校、東京都立小金井北高等学校、中央大学法学部卒業。株式会社河北新報社(仙台市)で新聞記者。衆議院議員秘書を経て、1993 年、小金井市議選に 26 歳で初当選。以降 7 期連続当選(直近 4 期は無所属で立候補し、当選)。「脱ムダ改革」を掲げ、高額人件費問題など小金井市政のムダ遣いや不正、癒着、天下りを厳しくチェック。

現在=小金井の地域政党「情報公開こがねい」共同代表。東京の地域政党「自由を守る会」(代表=上田令子都議会議員)幹事長。小金井市商工会参与。貫井北町商工振興会事務局長。中町親愛会相談役。中央大学学生会小金井支部副支部長。小金井北高等学校同窓会幹事長。

趣味=フルート演奏(47 歳で始めた初心者です)/日光浴(お金がかかりませんね(笑))/愛犬との小金井散歩/車の運転(愛車は軽自動車です)

日々の市議会報告、活動報告、雑感

Twitter、facebook に掲載しております。「渡辺大三 HP」からアクセスできます。ぜひお読みください。

<http://www.daizou.org/>